

令和元年度小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会 報告書

教科・領域	国語		愛知県教育委員会
月日・曜	小：6月24日（月） 中：6月25日（火）	会場名	国立オリンピック記念青少年総合センター

<小学校> 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 菊池 英慈
 <中学校> 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 杉本 直美

1 評価の参考資料（国立教育政策研究所）について

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（評価規準作成及び評価方法の工夫等）（案）

第1編 総説

第2編 各教科における「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

第3編 評価に関する事例（11月頃公表予定）

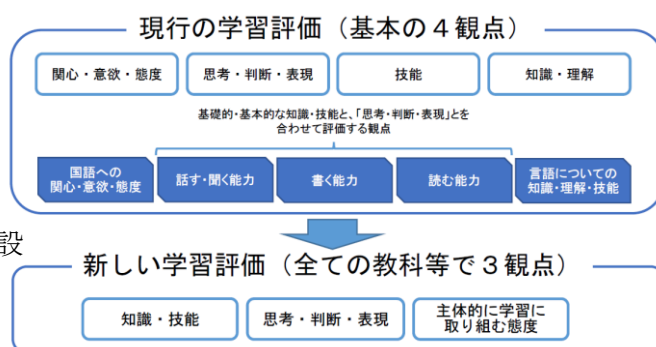
2 新学習指導要領国語（小学校・中学校）の継承点と変更点

(1) 【継承点】＝重要である、効果的である

- 学習過程の明確化
- 学習の系統性の重視
- 授業改善のための言語活動の創意工夫 → 言語活動を通して、資質・能力を育てる
- 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実
- 読書指導の改善・充実

(2) 【変更点】＝改善して充実させる

- 目標及び内容の構成の改善
→ 資質・能力の三つの柱で再整理
- 語彙指導の改善・充実
→ 小中高、全ての段階で系統的に整理
- 情報の扱い方に関する指導の改善・充実
→ 新たに内容を整理し、指導事項として新設
- 「考えの形成」の重視
→ 「思考力・判断力・表現力等」の各領域に「考えの形成」に関する指導事項を明示



【目標及び内容の構成の改善】

3 目標と観点の趣旨との対応関係

(1) [小学校] 第1学年及び第2学年の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

(2) [小学校] 第1学年及び第2学年の評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

4 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

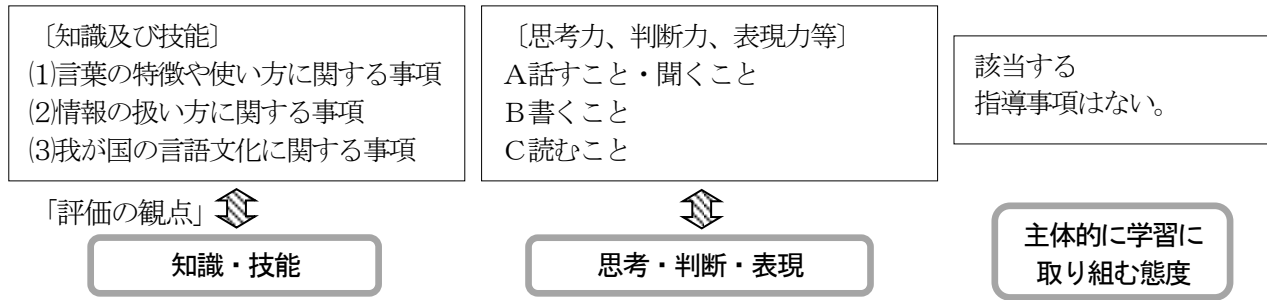
A 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

B 観点ごとのポイントを踏まえながら、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」とは・・・学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの

A 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

「内容のまとめり」



B 観点ごとのポイントを踏まえながら、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

例：小学校第1学年及び第2学年「A 話すこと・聞くこと」ア 紹介や説明・報告等伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を通した指導の評価規準例

「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準の作成手順（例）

- ・ 学習指導要領の「2 内容」は、そのまま学習指導の内容となりうるものであり、文末を変更することで「内容のまとめりごとの評価規準」となる。(参考資料 第1編 第2章より)
- ・ 学習指導要領の「2 内容」には、育成すべき資質・能力（指導事項）が示されている。
- ・ 育成すべき資質・能力（指導事項）の文末を「～すること」から「～している」と変更することで、「内容のまとめりごとの評価規準」となる。
- ・ 国語科においては、「内容のまとめりごとの評価規準」＝「単元の評価規準」とすることが可能。

学習指導要領「2 内容」

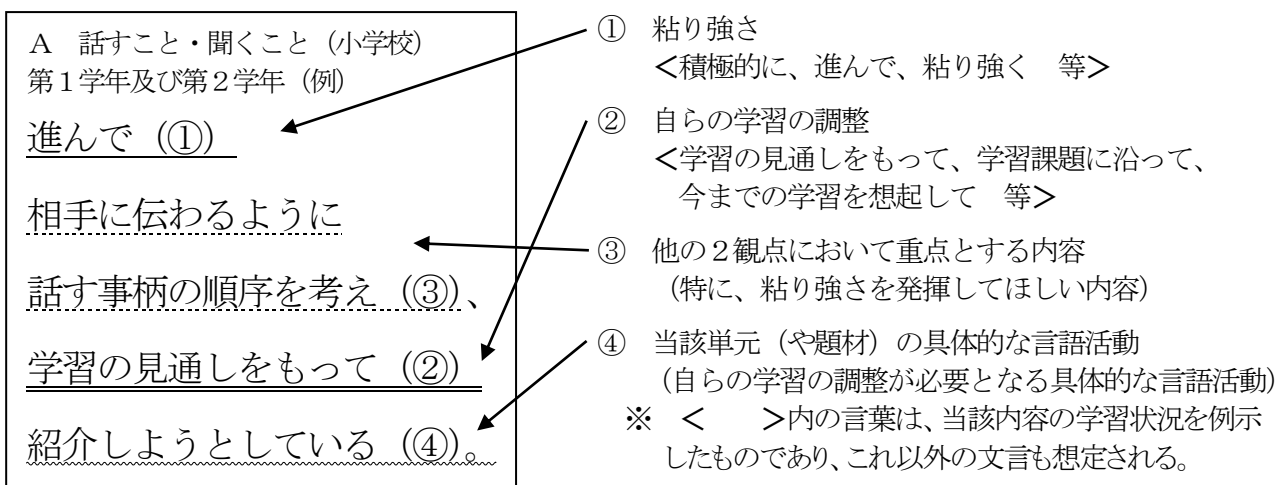
観点	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
指導事項	・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとめりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 （〔知識及び技能〕(1)オ）	・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ） ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ）

評価規準の例

観点	知識・技能	思考・判断・表現
評価規準例	・身近なことを表す語句の量を増し、 話や文章 文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとめりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 （〔知識及び技能〕(1)オ）	・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を 考えている 。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想を もっている 。 （〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成手順（例）

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての考え方（一部）（参考資料 第1編より）
「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨に照らして、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。
- 学習指導要領の「2 内容」には、該当する指導事項はない。よって、当該単元や題材によって、評価規準の文言を作成することが必要となる。その際には、①…知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている側面 及び②…①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の二つを評価することが求められる。
- ①②の側面の双方を適切に評価するため、下記③④に示したように、特に、粘り強さを発揮してほしい内容と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考えて授業を構想し、評価規準を設定することが大切である。
- 上記を踏まえて、①から④の内容を全て含め、単元（や題材）の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫することが考えられる。



例：中学校第1学年の「A 話すこと・聞くこと」 ア 紹介や説明・報告等伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動を通した指導の評価規準の例

- 学習指導要領 2内容 をもとに、内容のまとまりごとの評価規準を作成した例

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領 2 内容	<p>(1)エ <u>単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること</u>している。</p> <p>指導事項の一部を用いた場合の例。一年間を通して、当該学年に示された指導事項を身に付けることができるようにすることに留意。</p>	<p><u>話すこと・聞くことにおいて、</u> ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討<u>すること</u>している。</p> <p><u>話すこと・聞くことにおいて、</u> エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えを<u>まとめること</u>している。</p>	<p>特に、粘り強さを発揮してほしい内容</p> <p><u>積極的に</u> (①) <u>集めた材料を整理し</u> (③)、<u>学習の見通しをもって</u> (②) <u>報告しようとしている</u> (④)。</p> <p>自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動</p>

5 年間学習指導計画作成の留意点について

- ・ 一年間で、「学習指導要領」に示された当該学年の資質・能力を過不足なく育成するため、下の表のような計画が必要。
- ・ 計画を立てた上で、指導事項の一部を用いて評価規準を作成するかどうかを整理する必要がある。
- ・ いつ、どの資質・能力を育成するのかを計画するという意識が大切。

平成元年度 国語科年間指導計画 第2学年(例)

		月						
		4	4	4	5	5		
		教材・単元名	ふきのとう	春が いっぱい	今週 の ニ ュ ー ス	たん ぼ の ち え	ひ ろ か ん 字 の (1)	
		指導時数	2	5	6	6	2	
知識及び技能	使い 方 に 関 す る 事 項 (1) 言 葉 の 特 徴 や	言葉の働き	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。			◎		
		話し言葉と書き言葉	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。					
		漢字	ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。			○	◎	
		語彙	オ 身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付くこと、語彙を豊かにすること。	○	◎			
表現力等	C 読 む こ と	構造と内容の把握	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	○				
		精査・解釈	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。				◎	
		考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。					
		共有	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。				○	

6 観点別学習状況の評価について

学習指導要領に示された目標から「内容のまとまりごとの評価規準」(国語科ではそのまま「単元の評価規準」となりうる)を作成したら、それぞれの規準に沿って観点別に評価し、児童生徒の学習状況を分析的に捉えることが必要となる。

- ・ 「単元の評価規準」を作成したら(例:小学校1・2年 C読むこと)

ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。〔知識及び技能〕 2ア)	「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)	進んで①時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え③、学習の見通しをもって②分かったことを話そうとしている④。

生徒の学習の状況を適切に評価するために、実際の学習活動を踏まえて

- ・ Bと判断する状況
- ・ Cの状況への手立てを評価規準に沿って想定するようにする。(第3編で例示予定)

- ・ 「知識・技能」の評価の方法・・・従前の評価の考え方と大きく変わらない。ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善が求められる。また、児童生徒が文章で説明をするなど、知識や技能を用いる場面を適切に取り入れる。
- ・ 「思考・判断・表現」の評価の方法・・・従前の評価の考え方と大きく変わらない。ペーパーテストのみならず、論述やレポート作成、発表、グループや学級における話し合いなどの工夫が考えられる。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法・・・ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を用いて教師が評価を行うことが考えられる。その際、各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う必要がある。